

平成27年度

自己点検 自己評価報告書

平成29年2月

学校法人 中部学園

中部楽器技術専門学校

平成27年度
自己点検・自己評価報告書 目次

表紙

平成27年度自己点検・自己評価について

- 自己評価項目 (A) 教育理念・目的・人材育成像
(B) 学校運営
(C) 教育活動
(D) 生徒指導等
(E) 学修成果
(F) 生徒・学生支援
(G) 教育環境
(H) 生徒・学生募集
(I) 財務
(J) 法令等の遵守
(K) 社会貢献・地域貢献
(L) 国際交流

学校法人 中部学園
中部楽器技術専門学校

平成27年度自己点検・自己評価について

本校では、平成25年度に文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に自己評価に取り組み、教職員が本校の理念、目標に照らして自らの教育活動を評価し、改善することによって、職業教育の質の補償・向上に組織的に取り組みました。また、平成27年3月に文部科学省における職業実践専門課程の認定を受け、平成26年度に自己点検・自己評価を行い、更なる企業等との連携を深め職業教育の充実を図るとともに、平成27年度も実施致しました。

1 対象期間

平成27年4月1日～平成28年3月31日

2 実施方法

学内に「自己点検・自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に実施しております。

「自己点検・自己評価委員会」

委員長 角堀雅信校長

委員 早川昌幸進路指導部長

花野雅彦広報推進部長

服部幸弘事務長

3 自己評価項目

自己評価は、以下の12項目について実施しています。

- (A) 教育理念・目的・人材育成
- (B) 学校運営
- (C) 教育活動
- (D) 生徒指導等
- (E) 学修成果
- (F) 生徒・学生支援
- (G) 教育環境
- (H) 生徒・学生募集
- (I) 財務
- (J) 法令等の遵守
- (K) 社会貢献・地域貢献
- (L) 国際交流

4 評価項目に対する評価

評価は、1～4の点数で記載しております。

4：適切 3：やや適切 2：やや不適切 1：不適切

A、教育理念・目的・人材育成像		評価点
A-1	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界保護者等に周知されているか	4
A-2	各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

A-1	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構造等が生徒・関係業界保護者等に周知されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	本校の教育理念、目的、育成人材像、特色、将来構造等については、学生・保護者にはオープンキャンパス等の講習会、入学式及び保護者通信等で周知されている。業界関係者等には、毎年開催されるオーナー研修会等での挨拶において周知されている。	4
今後の課題とその 解決方法	学生においては、入学学生は入学式等で周知しているが在校生においても、新年度合宿、湯の山研修合宿等の場において再度の周知が必要である。	
参考資料	学生パンフレット、学生募集要項、保護者通信	
A-2	各学科の教育目標・人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	業界のニーズを発掘する場所として「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」における委員の方々からの意見を取り入れ、本校の「カリキュラム編成委員会」において、業界ニーズに沿った教育課程の編成を行っている。	4
今後の課題とその 解決方法	業界のニーズの変化に対応するためには、ニーズに沿った教育課程の編成を迅速にすることが重要である。その為には、業界、他校の情報収集を図るような取組みが必要である。	
参考資料	シラバス、年間カリキュラム表	

B、学校運営		評価点
B-1	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	4
B-2	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

B-1	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	目的に沿った運営方針、経営方針に沿った事業計画は策定されている。事業計画においては、年度初めの全職員会議の場において教職員全員に周知している。事業計画に基づいて各部署、各個人において目標を立てている。目標については、個人面談等で進捗状況を確認している。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	事業計画書	
B-2	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	情報システム化等による業務の効率化が図られているかについては、学籍、成績、欠席の管理システム、入学希望者管理システム、就職先企業管理システムがありそれぞれのネットワークは情報セキュリティの理由でアクセス権を区分している。セキュリティの強化も行われた。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料		

C、教育活動		評価点
C-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
C-2	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

C-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	平成26年度より、教育課程編成委員会を開催し委員からの意見を参考に、毎年度教育課程の編成を行っている。各学科においては、実習カリキュラムに重点をおいた編成となりつつある。	4
	業界のニーズに沿った人材育成のカリキュラムも導入している。	
今後の課題とその 解決方法	「教育課程編成委員会」、「カリキュラム編成委員会」等を中心にした高度の教育課程の編成が望まれる。	
参考資料	教育課程編成委員会議事録	
C-2	職員の能力開発のための研修等が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	教員研修においては、生徒指導の研修を「TCI研修」、実技習得の研修は業界人における研修を実施している。「TCI研修」は年6回の研修を実施した。実技に関する研修は各学科において個別に開催を実施した。また、月に1回開催される「教員会」において学生指導に対する意識の統一を図っている。	4
今後の課題とその 解決方法	研修においては、マンネリ化の無いように新たな研修の導入も必要である。 また、多様に変化する社会・業界の現状に対応できるような研修も考えていく必要がある。	
参考資料	「TCI研修資料」	

D, 生徒指導等		評価点
D-1	基本的な生活習慣の確立の為に取組が行われているか	4
D-2	生徒の安全管理の為に取組が行われているか	4

D-1	基本的な生活習慣の確立の為に取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	毎年度実施している新年度合宿のオリエンテーションの場において、各担任より基本的な生活習慣の指導や、学生個人ごとに年間を通しての目標設定を掲げ取り組んでいる。また、クラス担任より朝のSTにおいて学生の状況把握と適切な指導をしている。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	オリエンテーション合宿の資料、出席簿、週間報告書	
D-2	生徒の安全管理の為に取組が行われているか	
現状認知・評価等 と その根拠	防災体制は構築されている。施設の点検も専門業者に委託して安全性を確立している。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	防災管理点検記録、学生寮案内パンフレット 学生アルバイト届	

E、学修成果		評価点
E-1	就職率の向上、退学率の低減が図られているか	3
E-2	卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか	4

E-1	就職率の向上、退学率の低減が図られているか	評価点	
現状認知・評価等 と その根拠	就職活動の前年時に意識アンケートを詳しくとり、希望の把握とともに個別に抱かえる悩みや問題点を早期につかんでいる。全体でのガイダンス実施後は個別面談を重視し、一人ひとりに応じた指導を充実。キャリアサポートに熟知した職員が担当をしている。	3	
	求人増のために、楽器業界のみならず音楽サービス分野での求人獲得のために企業訪問や案内物の発送でこれを促進している。		
	学業不振者や生活素行不振者を早急に見い出し、担任が面談するとともに学科長から校長へと報告されその原因を特定し解決に導くなどの対策をとっている。場合によっては保護者に連絡を行い、来校して頂き三者懇談を実施することもある。さらに、入学前の進学意識がどうだったかも入学広報広報担当職員から担任に伝えられ、教職間での情報共有を図り対応の充実度を上げている。		
	今後の課題とその 解決方法		健康上の問題（精神不安）等で退学に繋がるケースが目立つ。
			学業不振の学生の場合は、改善点を見い出しその後の指導によって退学防止に繋がっているケースがほとんどだが、健康上の問題（精神不安）が増加傾向にあり教職員のスキルだけでは対応できない面も否めないので外部の専門カウンセラーの定期的な活用と常勤教員への知識研修の実施が必要である。
			参考資料
			就職実績一覧（当該年度のもの）

E-2	卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	卒業後1年経過する前に現状報告としてアンケート調査を行い、仕事内容や仕事状況さらにはそれに対し	4
	ての自分自身の不足事項が何であるか振り返り、本校に知らせてくるよう働きかけている。カリキュラム	
	や指導方法の改善にこれを生かしている。さらに、卒業生本人に対してのキャリア指導やアドバイスを	
	するとともに、特に技術的な必要事項についてはこれをテーマとした卒業生研修を実施してそのフォロー	
に努めている。		
今後の課題とその 解決方法	卒業生と在学生在が対話できる場を増やし、直に卒業生の生の話を聞き、在学生在が自分のキャリアを考える時間を提供してあげること目標設定が明確になる。	
参考資料	なし	

F, 生徒・学生支援		評価点
F-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
F-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

		評価点
F-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
現状認知・評価等 と その根拠	進路指導部内で会議を行い、進路指導に関する年間計画を立て1年次秋季から就職決定までを有機的に活動している。内容は多岐にわたっており就職に対する意識付け、自己分析、就職活動の進め方などを説明する全体ガイダンスに加え個別面談や任意の面接対策講習への参加、履歴書指導などを順次行って希望職種への就職を目指している。	
	同時に進路指導部スタッフによる企業訪問を密に行い情報収集に努めて求人増につなげるとともに、学内外での企業説明会の実施をして学生とオーナーや人事担当者を引き合わせる場の提供を行っている	
	更に充実した進路指導体制にするためには、担当者からの一方的なガイダンスだけではなく。自己発見ツールなどを利用するなど多く行い、自己PRに有効な訓練をさせる必要がある。	
	就職支援室年間スケジュール	
	卒業生座談会企画書	
今後の課題とその解決方法		
参考資料		
F-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	AO入試にエントリーして早期に入学許可となる生徒に対しては、音楽や楽器、基礎学力確認のための課題を与え入学前に提出させてチェックする体制作りをつくりあげている。これにより入学前教育のキャリアを見つめる機会として提供し職業意識を早期に立ててキャリア教育につなげるようにしている。	4
今後の課題とその解決方法	入学前教育については、質量ともに学内教職員によるチェック体制の充実を図り、入学時の専門教育にスムーズに入れる工夫が必要である。	
参考資料	なし	

G, 教育環境		評価点
G-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
G-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4

G-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	教育目標の効果的な達成を念頭に置き、学校内の設備の巡回を行い安全な教育環境を整備している。	3
	日常的なメンテナンスについても、早期に整備・改修をしている。	
今後の課題とその 解決方法	施設設備の老朽化が目立つとともに学生数の増加に対応できるような校舎の増築が必要である。	
参考資料	学内巡回日誌	
G-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	学外の実習施設として湯の山研修センターを構え、毎年、学生が集団行動の大切さ、各学科においての	4
	技術の修得を集中的に行っている。インターンシップ実習においては、全学科で取り組み始めている。	
	海外研修では、楽器総合学科と弦楽器製作科ギタークラフトコース（ともに2年生）が中国研修、弦楽器	
製作科バイオリン修理&製作コース（2年生）がイタリアのクレモナへ海外研修を実施している。		
今後の課題とその 解決方法	研修センターの活用方法の充実、インターンシップ実習の積極的参加、海外研修においては新鮮な工夫を 考える必要がある。	
参考資料	湯の山合宿研修資料、インターンシップ実習記録報告書、海外研修資料報告書	

H, 生徒・学生募集		評価点
H-1	高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	4
H-2	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4

H-1	高等学校等に接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	高校訪問説明に重きを置き、新たな発見をして頂くケースが増えてきている。新情報は常にDMで告知をすることに努めている。毎月月初めに高校の先生宛にDMさせて頂いたり、メールで送らせていただいている、お役立ち情報を載せた『中部楽器通信』が習慣化してきた。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	なし	
H-2	学生募集活動において資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	
現状認知・評価等 と その根拠	強い志をもった入学検討者や保護者のもっとも関心のあり事柄が就職状況であるのでリーフレットはHPのコーナーでは正確に明瞭に伝えるよう努めている。また、当該年度でも状況を速報で告知したり進捗がわかるようにしている。また、ピアノ調律科では教員全員が国家資格1級保持者であり、学生全員が3級取得を目指して取り組んでいることを伝えている。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	なし	

I, 財務		評価点
I-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
I-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4

I-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	中長期的な財政基盤の安定については、本法人の正味財産および基本金ともに増加している。	4
	監査体制については、監事による監査が確立され理事会、評議員会で監査報告をしている。	
	財務情報の公開については、ホームページ上に掲載し、学生、保護者はもとより一般に情報の公開・発信を行っている。	
今後の課題とその 解決方法	財政基盤の安定については、18歳人口の減少がより顕著になる平成30年度以降も安定した学生数の確保が不可欠である。その為には充実したカリキュラムの編成等が必要である。	
参考資料	決算書	
I-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	予算については、予算編成における基本方針に基づき編成され理事会、評議員会の承認を得て決定されている。	4
	また、会計については「学校法人会計基準」に従って適正な会計処理をしている。	
今後の課題とその 解決方法	予算を編成するにあたり、学生数の確保が大きな分岐点になる。今後も安定した予算を編成するためには長期的視野に立ち、学生募集を行っていく。	
参考資料	予算書	

J, 法令等の遵守		評価点
J-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
J-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4

J-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	法令や設置基準の遵守については、法人として適切に実施され、関係省庁への報告においても適切に実施されている。	4
今後の課題とその 解決方法	コンプライアンスの充実を図る時期にきており、全職員の意識の向上を更にアップさせる。	
参考資料	各種規程等	
J-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	個人情報保護については、学校内で「個人情報保護規程」が定められており、学外への個人情報の流出を予防している。なお、学生に対しては入学時のオリエンテーション等で説明をしており十分な周知活動を行っている。	4
今後の課題とその 解決方法	学生については、入学時のオリエンテーションでも説明をするが、パソコン、携帯電話等を使っての情報流出を防止するために担任が再度徹底する。	
参考資料	個人情報保護に関する規程等	

K, 社会貢献・地域貢献		評価点
K-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
K-2	生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

K-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	評価点
現状認知・評価等 その根拠	毎年秋に実施している学園祭において様々な企画に地域の方々にも来校、参加いただいて社会、地域の交流ができています。昭和区役所が主催する「昭和区区民祭り」への協力体制として、設備・人的な協力を行っており社会・地域への貢献ができています。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	学園祭資料、昭和区民祭り資料	
K-2	生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	評価点
現状認知・評価等 その根拠	対外窓口として「学生ボランティア委員会」（教員）を設置し、諸団体からのボランティアの申込、受付を行っている。老人福祉施設、養護施設を中心とした演奏会、ピアノ調律等に取り組んでいる。また、国際交流、社会福祉支援、地域貢献等様々な分野で活動をしている。	4
	今後の課題とその解決方法	
参考資料	ボランティア活動記録	

L, 国際交流		評価点
L-1	留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	4
L-2	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

L-1	留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	本校は1993年より中国の南京芸術学院と友好提携をしている実績がある。これまでに中国からの留学生の受入を行うと同時に本校の職員を中国へ派遣し現地の授業の充実化に尽力している。2015年度は秋に約20英の学生が研修旅行の際南京芸術学院の学生との交流会を実施した。	4
	留学生の本校への希望者も顕在化してくようになった。充実した受入れ並びに教育体制を模索していかなければならない。	
今後の課題とその 解決方法		
参考資料		
L-2	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	評価点
現状認知・評価等 と その根拠	鍵盤付ハーモニカを約400本リペア・クリーニングしてミャンマーに贈呈する試みを図ることができた。その技術並びに現地での演奏披露などに関し、高い評価を頂くに至った。新聞にも取り上げられ、地域の方々からも違う視点で関心をもって頂くことができた。	4
今後の課題とその 解決方法	国連WAFUNIFの日本での唯一の認定校として認められている。国連やNYのパブリックスクールでの楽器などのリペアインターンの具体的なシナリオを実現化していかなければならない。	
参考資料		